

松阪中央総合病院 中央検査科は、

「三重県輸血機能評価認定」を取得しました。

中央検査科
技師長 中西 繁夫

当院は、2019年8月1日付けで三重県輸血療法委員会より、三重県輸血機能評価認定を取得しました。輸血機能評価とは、県内医療機関における血液製剤使用の適正化、輸血療法に関する病院支援を推進する制度として、第三者機関による輸血領域の点検・視察を受け、輸血療法が適正に行われる機関病院であることを認定するものです。

当院では、緊急輸血に対応出来るよう臨床検査技師が、24時間365日昼夜を問わず輸血業務に携わっています。その中心となるのが輸血部臨床検査技師(日本輸血細胞学会認定検査士1名含む：写真)であり、年間で血液型検査約4,500件、交差適合試験(輸血される血液が患者様の血液と適合するかの検査)約2,500件を実施しています。

また皆様の献血で得られた大切な血液製剤(赤血球製剤、新鮮凍結血漿、血小板製剤)を、適正に管理し患者様の元へ届けることも私たち臨床検査技師の重要な業務となっています。

自施設の輸血実施体制が適正かどうかを判断するのは難しく、今回、第三者機関による点検・視察を受けました。認定取得による最大のメリットは医師・看護師は勿論、なにより患者様に安心して輸血を受けていただけることです。視察により客観的な評価を受け問題点の洗い出し、指摘のあったところを改善した結果、認定を取得することができました。

今後も、患者様に安心・安全な輸血を受けて頂くために、人員・設備の充実と、更なる輸血検査知識の向上に努めていきます。



輸血部臨床検査技師